



# 吉田町長に聞く 「これからの町づくり」



震災から10年目の節目を迎えた浪江町が、これからどのように発展していくのか、前月号に続き「これからの町づくり」について吉田町長に聞きました。

## 福島水素エネルギー研究フィールドへの期待は

この施設は、太陽光発電による電力を利用して水素を製造しています。これまで、町では「浪江町復興計画【第二次】」に基づき再生可能エネルギーを活用した町づくりに取り組んできましたが、今後は、この施設で製造する「浪江産CO<sub>2</sub>フリー水素」も積極的に活用していきたいと考えています。

開催延期が決定しましたが、東京2020オリンピック・パラリンピックでは、日本の高い技術力を世界に示すため、聖火台や聖火リレーのトーチ、選手村の燃料などに「浪江産CO<sub>2</sub>フリー水素」の活用が決まっています。世界で地球温暖化が問題となるなか、環境に優しい未来のエネルギーである水素の利活用が国内外で広がっていますので、道の駅や産業団地などで水素を積極的に活用することで、将来的には浜通り全体の復興につなげることができればと考えています。

また経済面においては、当施設へ世界中の人々の訪問が予想されます。また、水素産業の一層の振興が図られることで、関連企業の進出などによる雇用創出や人口の増加などが見込まれ、町のさらなる発展につながると期待しています。

## 農業や漁業の復興状況は

水産業共同利用施設の完成により、請戸漁港で水揚げされた魚介類などを市場へ流通させることが可能になりました。漁港が活気づけば、町全体にも波及します。今後、全国の皆さんに新鮮な魚介類を届けることができると思うと、本当にうれしいです。これまで厳しい環境下で試験操業を重ねてきた関係者の皆さんのためにも、さらに漁業を盛り上げていきたいと考えています。

また、「持続可能なまちづくり」を進めるためには、「農業の再興」も重要です。既に帰還した農家の皆さんは、花卉やエゴマ、タマネギなどの栽培に力強く取り組んでいるところですが、水稲においても、皆さんの努力によって作付面積が広がり、今年には昨年の3倍の81ヘクタールの作付けを予定しています。さらには来年秋の利用開始を目指して乾燥調製貯蔵施設（カントリーエレベーター）の整備を始めるなど、営農再開や新規就農を全力で支援していきます。

## 今後の町づくりの展望は

”町の顔”である浪江駅前や新町通りなどの中心市街地を再開発し、にぎわいを取り戻したいと考

えています。駅の利便性向上など、以前から国に要望していた事業計画がようやく認められましたので、今後、具体的な整備計画を策定していきます。商工会をはじめ地元の方々の協力が不可欠なので、ぜひお力添えをお願いいたします。

また、多くの皆さんが待ち望んでいる医療の充実については、できるだけ早く医師を確保するために、あらゆる手を尽くしています。全国で医師不足が深刻化していることもあり、難航しています。なお、介護施設については、国と調整を進めている段階です。既にサービスを開始した民間事業者とも連携して整備を進めていきます。

## 町民の皆さんへメッセージを

”ふるさと”の再生には、まだ長い時間を要します。仕事の都合などで、簡単に町に戻ることができない人も多いと思いますが、浪江には皆さんのふるさとです。いつか状況が変わり、浪江に戻れる日が来るまで「どこにいても浪江町民」という「望郷の思い」を諦めないでください。

皆さんが帰りたいと思える町を、全身全霊をかけて一生懸命つくっていきますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。